

【報告】母語別日本語教育の可能性と必要性

| | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 著者 | 吉村 毅 |
| 雑誌名 | DHUJOURNAL2020 |
| ページ | 127-130 |
| URL | http://doi.org/10.34482/00000125 |



母語別日本語教育の可能性と必要性

The Possibility and Necessity of Japanese Language Education According to the Native Language

吉村 毅 YOSHIMURA Takeshi

デジタルハリウッド大学大学院 教授
Digital Hollywood University, Graduate School, Professor

外国人留学生それぞれの母語に合わせて日本語教育の方法をカスタマイズすることにより、学習の効率性を高め、より高度な日本語スキルをより早く習得可能にする教育手法の開発を目的とした研究について報告する。まず、外国人留学生の母語の特性の違いにより、日本語のみならず各外国語の習得の労力となる必要時間数が異なる点に注目する。例えば、英語圏からの留学生は一定レベルの日本語習得に、韓国語圏からの留学生の3倍以上の時間が想定される。私は5年間にわたり、デジタルハリウッド大学に在籍するすべての外国人留学生の母国で使われる公用語である19種の言語を学習し、研究してきた。そこから得た知見を基に、語彙、文法、声調、発音の4要素に分け、外国人留学生それぞれの母語と日本語との間の差異の感覚を整理してきた。今回19種の言語の中から、いくつかの言語をピックアップし、相対距離感覚での類似性と、意味の違いを図として可視化した検討結果を考察する。また、これまでに取り組んだ日本語上級者向け講義についての実例を示す。

キーワード：外国人留学生、母語、外国語教育、漢字語、漢字語由来

1. 背景と目的

ここでは、私は言語学や日本語教育の専門家ではなく、映像ビジネス系科目を担当する教員として講義と学生指導をしてきた視点からの考察として話を進める。そのため、言語教育の専門用語は使用していない。

私は5年間にわたり、デジタルハリウッド大学に在籍するすべての外国人留学生の母国で使われる公用語である19種の言語（以下順不同、英語、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語、モンゴル語、スペイン語、イタリア語、フランス語、ロシア語、アラビア語、トルコ語、シンハラ語、ノルウェー語、スウェーデン語、ウクライナ語）を学習し、研究してきた。

その中で、外国人留学生全員の母語の構造を知ることで、日本語学習の難易度を確認するの必要を感じた。そのうえで、外国人留学生の母語に合わせて日本語教育の方法をカスタマイズすることで、学習の効率性を高め、より高度な日本語スキルをより早く習得可能にすることを目指した教育手法の開発の必要性を認識した。

外国人留学生の母語がどの言語であるか、そして、どの言語を学ぼうとするかの組み合わせにより、それぞれの外国語の習得に必要な労力と時間が異なってくる。例えば、英語学習においては、Language Testing International (LTI) による研究「How Long Does it Take to Become Proficient?」がある^[1]。母語の種類により、英語学習に必要な時間数が数倍レベルで異なることがよくわかる。労力を時間数で表現することは必ずしも正しくはないが、それぞれの時間の中で学習効率は同じであるという前提で、今回の報告では、このように時間数で表現することとする。

2. それぞれの外国語から日本語への距離感

次に、先の19種の言語の中から、日本語との比較において象徴的と思われる言語をいくつかピックアップして解説していく。

2.1 語彙（ボキャブラリー）からの考察

日本語と類似した語彙（ボキャブラリー）がどのくらいあるかが、少なくとも「読み・書き」においては、日本語学習の難易度に最も影響する。

注目すべきは、漢字語由来の語彙の構成比と、その発音類似度で

ある。中国語は、ほぼすべて漢字語から構成され、それらは中国語の意味と同じままか、少なくとも類似した意味で日本語としても使われている単語が多い。同じ意味として使われなくとも、漢字が表意文字であることから、ひとつひとつの文字が持つ根源の意味は、日本語での意味を連想しやすく、その結果、記憶に残りやすい。韓国語も、現在は漢字をほとんど使わずハングルを使用しているが、それぞれの単語のオリジナルは70%以上が漢字語由来であり、その構成比は日本語のそれとほぼ同じ比率である。さらに各単語の発音は、中国語以上に類似している場合が多い。

あまり知られていないのは、ベトナム語も日本語、韓国語に近い比率で漢字語由来の語彙を使用していることである。この漢字語由来の語彙が多い言語特性を生かして、非常に優れた日本語教育をしている著名なベトナムの日本語学校がドンズー日本語学校である。これは典型的な「学習者の母語の特性を最大限に活用した効率的な日本語教育」の好事例である。詳しくは大阪経済大学情報社会学部（2019年4月）の山本公平教授の『ベトナムにおける日本語学校の経営存続に関する一考察 —ドンズー日本語学校を中心に—』を参照されたい^[2]。ベトナム語は、文法や発音においては日本語から遠くかけ離れた言語であるが、英語系文法の言語群の中では特異な存在であり、日本語習得には、実は相当なアドバンテージがある。このことは、今後、さらにベトナムからの外国人留学生や移民が増加する可能性がある中で、積極的に考慮に入れたほうがよい一つの要素である。

日本語との相対距離感覚 【①ボキャブラリー類似性】

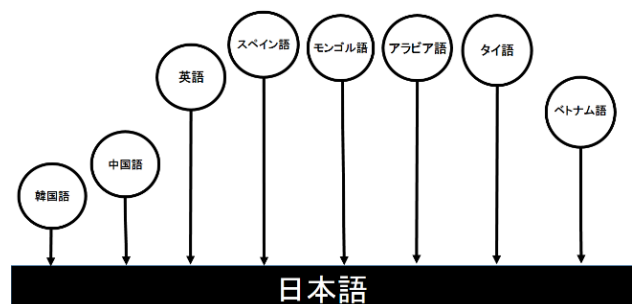


図1：日本語との相対距離感覚 ボキャブラリー類似性

2.2 文法構造からの考察

日本語学習において、文法が類似していることは、「話すこと(発表、会話)」「書くこと」において、非常に有利に働く。

文法構造については、ご存じの方も多いと思うが、日本語と同じ文法構造であるウラル・アルタイ語族系の言語をはじめとしたSOV型の言語は、基本的な文の組み立て方は日本語と類似する。韓国語話者である筆者の感覚的には、特に韓国語は70～80%以上が日本語と同じ文法である。

漢字語由来の語彙をほとんど使用しないが、SOV型言語系列で、文法が類似する言語はいくつかあり、本学の学生の母国の公用語の中では、モンゴル語、ミャンマー語、ネパール語、トルコ語、シンハラ語などがそれにあたる。その中でも、文法の類似度合には差があるが、モンゴル語、ミャンマー語は比較的、類似性が高いと感じ、日本語学習には有利な面がある。このSOV型言語系列の言語以外の外国語の多くは、英語に代表されるSVOを基本とする文法であることがほとんどで、日本語とは大きく異なる構造であるため、日本語学習に数倍の時間(労力)を要する。言語によっては3倍以上の必要労力の違いがあり、教育する側は、そのことを十分に理解したうえで各国の外国人留学生とのコミュニケーション(知ろうとする努力を含む)が望まれる。

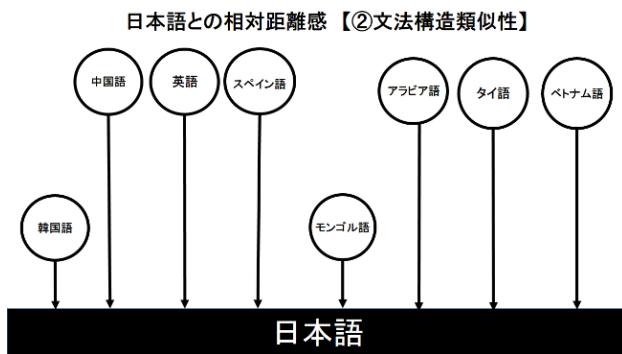


図2：日本語との相対距離感覚 文法構造類似性

2.3 声調(イントネーション)からの考察

声調により単語の意味を表す言語と、そうでない言語があり、声調がある言語には、日本語のイントネーションとは大きく異なる特徴がある。

声調がある言語は、本学学生の母国の公用語の中では、中国語(マンダリン)、タイ語、ベトナム語、ミャンマー語などがある。声調がある言語圏の学生は、初級段階では、声調が無い日本語の構造理解に難しさを感じると思像はできるが、そのことが他言語を母語とする学習者と比較して不利になることは少ないと推察する。逆の立場で、日本人が、これらの声調がある言語を学習するのは、たいへんハードルが高い。

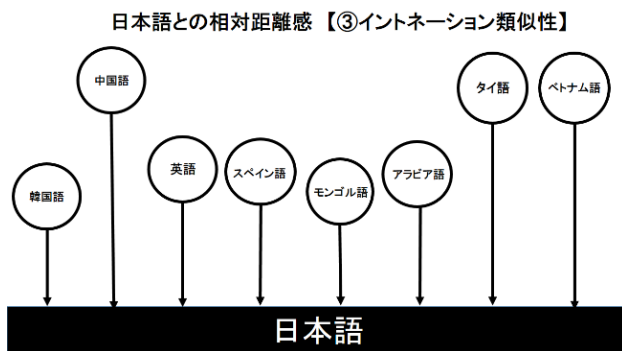


図3：日本語との相対距離感覚 イントネーション類似性

2.4 発音からの考察

発音の類似性は、「話すことと聞きとる能力」に大きく関連する。それぞれの言語が、それぞれ異なった発音の特徴を持ち、大きく日本語の発音と異なるため、日本人が、これらの言語の発音を学習することはたいへん難しい。逆に、多くの外国語話者が(こと発音においては)日本語の発音を学習するのは、そこまで困難ではない。その理由は、日本語の発音の種類、幅が他言語に比較して、少なく、狭いため、日本語が持つ発音は他言語の発音でカバーできる場合が多いためである。日本人が他国言語を学ぶ場合には、日本語に無い発音を覚え、発音できるようになる必要があり、難しい。

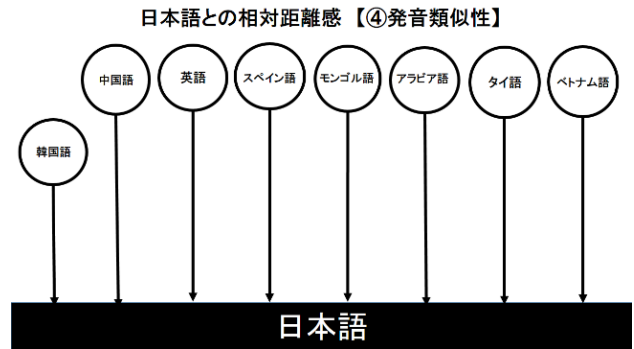


図4：日本語との相対距離感覚 発音類似性

2.5 漢字語の多寡と文法構造の類似性が最も影響が大きい

まとめとして、漢字語由来の語彙の使用比率が高いかどうかを縦軸、日本語との文法類似性を横軸にして、日本語との距離感を図解してみた。この距離が学習に必要な労力であり、学習の質が同じと仮定した場合の必要時間数と言える。

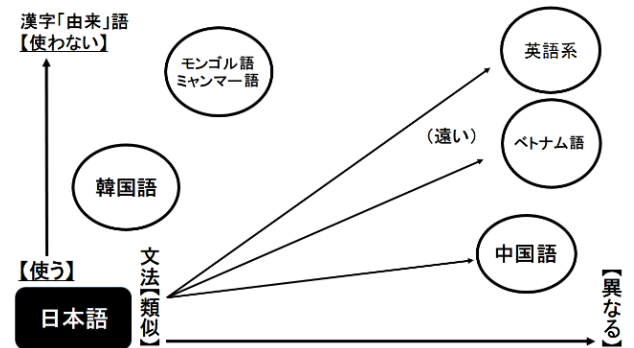


図5：漢字語の多寡と文法構造の類似性からの距離表現

漢字語由来というイメージをつかむために、例を図6に示す。「大学」という日本語を、中国語(マンダリン)の簡体字では、日本語と同じ「大学」と記し(発音は異なり中国語の発音記号であるピンインでは dà xué)と表せる。韓国語ではハングルで「대학」となるが、日本語のカタカナ的に記すとテハク(tae-hak)という発音に近く、日本語の「ダイガク」に似ていると感じるだろう。テ(tae) = 大、ハク(hak) = 学、だと言え、「なるほど」と思えるだろう。さらに、その下はベトナム語の「đại học」で、日本語のカタカナで表現すると「ダイホク(dai-hok)」に近くなる。ベトナム語ははっきりした声調により意味を表すので、このカタカナ発音だけでの意味の伝達は不可能であるが、音だけならば、「ダイホク(dai-hok)」であり、この場合も、分解すると、ダイ=大、ホク(hok) = 学、である。その下は英語の「University」に似ているスペイン語の「Universidad」である。

大学 대학 đại học Universidad

図6:「大学」を中国語、韓国語、ベトナム語・スペイン語で

このように見ていくと、漢字語由来の語彙の比率が高い言語は、日本語学習に有利であることが実感できると思う。これら各言語における、漢字語の発音方法は、音読み訓読みが基本である日本語と異なり1種類だけである場合が多く(中国語では2種類以上の漢字もあるが多くはない)、類出漢字について、その言語での発音を覚えると、そこから一気にボキャブラリーが増えることとなる。これが最も大きなアドバンテージであると考えられる。

3. 母語別に日本語を教えることによる効率向上の理由

これまで見てきたように、各言語と日本語の間の類似点と相違点を把握することによって、類似点を生かして効率的に学習をすることができそうであること、そして、また、相違点(学習が難しい部分)については、その言語特有の日本語学習の難しさを克服するため、その母語によって固有の教育手法を採ることが重要であると考えられる。

スポーツでも、あるスポーツをやってきた人が、新たに別のスポーツにチャレンジする場合、そのまま活用可能な筋肉や技術もある反面、場合によっては、むしろ邪魔になる筋肉もあるかもしれない。また、それは以前にやってきたスポーツの種類により異なるはずである。例えば、ある者が空手を始めるとしたとき、それが柔道の経験者であった場合には、「鍛えた下半身の強さは役に立つが、今からは相手に飛び込むときの瞬発力が必要で、腕の筋肉も、突きのスピードを速くするために、今とは異なった筋肉をつける必要がある」と指導できるかもしれないし、剣道の経験者であった場合には、「間合いの感覚、瞬発力をそのまま生かした」指導が可能かもしれない。それぞれが、すでに身に着けている技術や筋力をそのまま活用できる部分もあるし、そうでない場合もある。無論、まったくの初心者には、スポーツの基本となる体力づくりから始める必要がある。

4. 母語別クラス分けの方法論

母語別に教育を施そうとした場合に、壁となるのは経済的な効率であろう。母語のグループによっては、クラスが少人数になりすぎ、実現性が薄れることもありえる。そこで、効率を落とさずに、その母語グループの言語を理解した日本語教員を配置できるようにするために、それらの言語の特性で括り、いくつかのグループにクラスを分ける方法が考えられる。その場合によくあるのは、漢字語圏と非漢字語圏で分けるという方法であろうが、同じ漢字語圏でも、中国語と韓国語の特徴は大きく異なり(文法)、同じグループにしてしまつては、それぞれの言語の日本語との類似性が生かせない。また、ベトナム語は漢字語圏には分類されない場合がほとんどであろうが、前述のように漢字語由来の語彙の多さを活用しない手はないというように考えると、漢字語圏の母語のグループでは最低でも、中国語、韓国語、ベトナム語は独立したほうがよい。それ以外の言語については、文法構造的に日本語と類似したSOV型言語とそうでないSVO型(と、それに近い)言語があるが、いずれも漢字語由来の語彙をほとんど含まない言語であるので、同じグループとしつつ、母語の文法構造の類似性を考慮し、各学生の成長速度や目標到達時期を分けて設定し、文法から見た言語群別に異なる評価軸を持つこと

が望ましいと考える。

また、日本語の習得レベル別で考えると、初級段階は、母語別の教育の必要性が大きいと考えられる。今、教えているフレーズより、それを説明する文章のほうが難しくなってしまうことは自明である。もし私たち日本人が中学生時代に、英文法を英語で教わっていたらば、時制も三単現のsも不定詞も関係代名詞も理解が困難であったに違いない。

しかし通常、外国人留学生それぞれが母国の日本語学校で学んでから来日するために、この初級段階はクリアされている場合が多い。日本での日本語教育は、最低限の日本語がわかるレベルからのスタートとなるが、その個人差は激しく、日本語学校に通う時点では、まだまだ母語での説明があったほうが理解を促進できるのではないだろうか。

現実には、現地(母国)により日本語教育をする学校があるならば、そこで十分な日本語レベルをつけてから来日し、日本における日本語学校に入るほうがベターであると言えそうだが、もう一つの別の課題としては、非漢字語圏の現地で、現地ネイティブ話者でありながら、日本語能力が高い教員を確保することは容易ではないと推察できることがある。個別の日本語学校により差異は大きいだろうが、傾向として、現地では日本語教育環境が理想的で無い以上は、日本における日本語教育がそれをカバーをしていく必要がある。

5. 日本語上級者向け講義の実際

参考に一例として、本学の韓国留学生に対し私が試験的に実施した、日本語超上級者向けの日本語講義イベントを紹介する。

使用する単語のおよそ70%を同じ漢字語ルーツとし、文法構造も似ている日本語と韓国語は、お互いの話者にとり習得しやすいが、同じ漢字語由来の語彙や似ている慣用句でも、双方の文化の違いから、異なる意味を含む場合があり使用方法が難しい。この講義イベントでは、その違いを数学の集合論で使用されるベン図で解説した。表現が日本語と韓国語で似ているが、実は、異なる意味でも使用されている十数個の単語、慣用句を例として挙げて解説した。各単語、慣用句の意味をどうとらえるかを十数人の韓国人にヒアリングしてまとめた図であるが、同じ韓国人でも故郷がどこかによって解釈が異なる場合もあった。



図7: 韓国留学生向け「超上級日本語講習イベント」

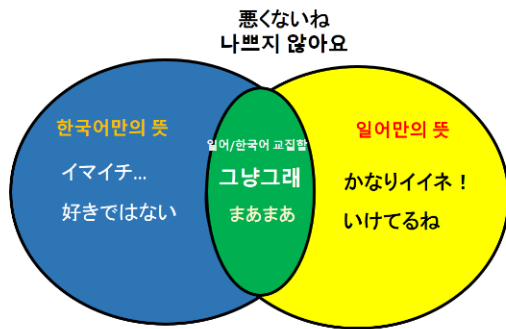


図 8 : 「悪くないね」の日韓意味の違い

同じ「悪くないね(나쁘지 않아요)」の表現でも、日本、韓国共通に「まあまあだね」の意味で使われる場合もあるが、通常、日本では、かなりポジティブな意味を持ち、逆に韓国では、ネガティブな意味を含む場合が多い。使い方を間違えると人間関係に響く。

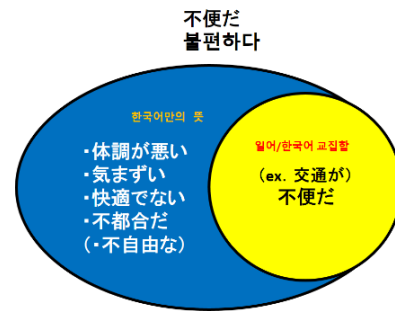


図 11 : 漢字「不便」の日韓意味の違い

この「不便だ(불편하다)」は、ルーツの漢字こそ同じであるが、かなり大きく使用方法が異なる例である。日本語と同じ意味での使用方法も少なからずあるが、韓国語では、体調が悪い、気まずい、快適でない、不都合など、さらに幅広い使用方法がある。アメリカ映画『不都合な真実』の韓国語題名にもこの言葉が使われている。

以上、十数枚の資料から4つの単語、慣用句だけを例として解説した。この講義イベントの場合には、すでに日本語が中級レベル以上になっている学習者に対して、さらに高いレベルの日本語を習得させるために行ったものである。上級に近づくほど単語や文法の母語との微妙な違いは、母語を十分に理解する教員でないと説明しきれなくなるといのが日本語教育に限らず、外国語教育の持つ課題なのではないか。

一方で、英語教育の場合には多くの教育機関で、それを教員間の役割分担で効率よく行うようになってきていると見える。英語と日本語では教育マーケットの規模が大きく異なるが、日本語教育においても、経済効率にも見合う、より効果的な方法を模索していきたいと考える。

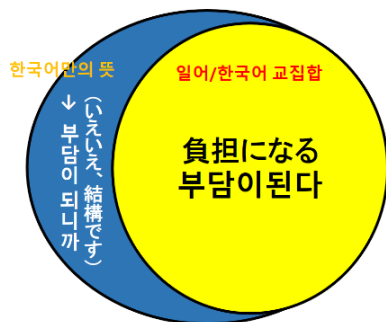


図 9 : 「負担になります…」の日韓意味の違い

日本語で「負担になりますので」と言った場合、重荷になる、というニュアンスであるが、韓国語でも意味は同じものの、ネガティブ度合いが低くなる。

例えば、韓国語では、知人が自分の子供にお年玉をくれようとしているとき、親が社交辞令として「負担になるので(부담이 되니까...) おやめください」と(韓国語で)言っているのを見たことがある。

6. おわりに

外国人留学生のそれぞれの母語に合わせて日本語教育の方法をカスタマイズすることにより、学習の効率性を高め、より高度な日本語スキルをより早く習得可能にする教育手法の開発を目的とした研究を進めている。外国人留学生の母語の特性の違いにより、日本語の習得の困難さが異なる点に注目し、語彙、文法、声調、発音の4要素に分け、外国人留学生それぞれの母語と日本語との間の差異の感覚を整理した。これによって適切な学習のグループ化を検討することができるようになった。また、これまでに取り組んだ日本語超上級者向け講義についての実例を示した。今後さらなる研究を進めたい。

参考文献

- [1] Language Testing International (LTI): "How Long Does it Take to Become Proficient?" <https://www.languagetesting.com/how-long-does-it-take> (参照2020年7月19日).
- [2] 山本公平：『ベトナムにおける日本語学校の経営存続に関する一考察 -ドーンズ日本語学校を中心に-』広島経済大学経済研究論集(2017年), 第40巻第2・3号, P.29-40.

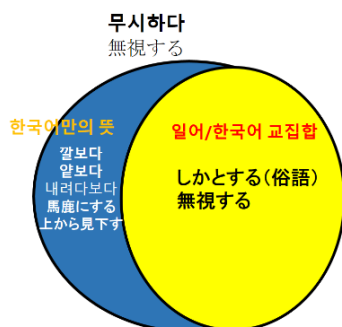


図 10 : 「無視する」の日韓意味の違い

日本語で「無視する」と言った場合の意味に加えて、韓国では、馬鹿にする、上から目線で見下す的な意味でも多用されている。韓流ドラマでも、しばしば見かける。「無視」することは人を軽く見ることであるという考え方と理解できる。